

令和4年度 都城市立夏尾小学校 学校評価報告書①

【4段階評価 A(4) = そう思う B(3) = だいたいそう思う C(2) = あまりそう思わない D(1) = そう思わない】

○ 学力の向上

| 重点目標   | 目標達成のための<br>努力実践事項  | 学校の自己評価コメント<br>(○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから)  | 自己<br>評価 | 関連<br>評価 | 学校関係者コメント   |
|--|---|---|----------|----------|---|
| <p>◎ 児童の学力向上と職員の授業力向上に努める。</p> <p>◎ 学習内容の確実な定着を図り、学力テスト等で全国平均を上回る。</p> <p>◎ 年間全校平均図書貸出冊数100冊以上を達成し、児童が読書に親しんでいると実感できるようにする。</p> <p>◎ 家庭学習の習慣化を図る。</p>                                  | <p>校内研究で「ICTを活用した授業改善」に取り組む。</p> <p>授業の中で習熟の時間やまとめる時間を設定する。</p> <p>学びの礎となる読書活動を推進する。</p> <p>家庭学習の習慣化に向け保護者の協力を得る。</p> | <p>○ 本年度は、西岳・夏尾地区小中一貫教育授業研究会の授業公開校となったこともあり、年間を通してICTを活用した授業改善に取り組んできた。</p> <p>◇ A・B評価の割合は、児童が100%、保護者が93%である。</p> <p>◇ 自宅待機中にパソコンやタブレットを持ち帰りできるよう準備していただき、オンライン授業に参加できたのはありがたかった。</p> <p>○ 授業で習熟の時間やまとめる時間を設定しており、昨年度の国語と算数のCRTテストで、ほぼ全学年全国平均を上回った。4月の全国学力調査においても、6年生はよい結果であった。</p> <p>◇ A・B評価の割合は、児童が96%、保護者が93%である。</p> <p>◇ 家庭学習はもちろんだが、できる限り授業内で理解できる事が理想的だと感じている。</p> <p>○ 読書週間の設定や図書館サポーターとの連携によるイベントの開催、くれよん号の利用やボランティアによる読み聞かせを実施している。</p> <p>○ 本年度は図書室の開館日を週2回に増やしたことにより、貸出冊数が2倍になっている。</p> <p>◆ A・B評価の割合は、児童が79%、保護者が80%である。</p> <p>○ 家庭学習がんばり週間の取組や、少人数で見届けもしやすいこともあり、ほとんどの児童がきちんと家庭学習を行っている。</p> <p>◇ A・B評価の割合は、児童が83%、保護者が86%である。</p> <p>◆ 宿題は学習中の単元だけでなく、反復して理解の定着と振り返りがしっかりできるようにして欲しい。</p> <p>◆ 夏尾地区は塾などが校区内にないので、希望者にパソコンを貸し出し、キュービナで自宅学習に活用できるようにすれば先取り若しくは補習をしたい児童両方の学力向上に繋るのではないかと考える。</p> | 3.3      | 3.6      | <p>○ 授業参観をすると、パソコンやタブレットを活用した学習が行われており、授業の工夫や改善が図られていることが分かる。</p> |
| <p>《課題と改善点》</p> <p>* 読書に親しんでいることを児童自身が自覚したり保護者が実感したりできるように、学校図書館での貸出冊数の増加や家庭での読書の推進を図るための取組を行っていく。</p> <p>* 「前の単元の学習内容を宿題に出す」「パソコンを効果的に活用する」等、学習したことを確実に身に付けさせるための家庭学習の在り方を工夫していく。</p> |   |   |          |          |   |

令和4年度 都城市立夏尾小学校 学校評価報告書②

【4段階評価 A(4) = 思う B(3) = だいたい思う C(2) = あまりそう思わない D(1) = そう思わない】

○ 豊かな心の育成

| 重点目標  | 目標達成のための<br>努力実践事項              | 学校の自己評価コメント<br>(○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから)  | 自己<br>評価 | 関係<br>評価 | 学校関係者コメント   |
|---|---------------------------------|---|----------|----------|---|
| ◎ 全児童が「学校が楽しい」と言えるようにする。<br>◎ 自信をもって人生を生き抜く基礎力を育てる。<br>◎ 気持ちの良い挨拶や返事ができる児童を育成する。<br>◎ 児童のボランティア精神を培う。 | 思いやりの心や温かい人間関係の醸成に努める。          | ○ 日常の指導や道徳及び学活における指導を行うことによって、子どもたちは、友達とのトラブル、いじめ等生徒指導上の問題点について、常に敏感でお互いが気を付けているように思う。<br>○ 教育相談、いじめ不登校対策委員会での認知件数は0である。<br>◇ A・B評価の割合は、児童が96%、保護者が80%である。<br>◇ 児童が夏尾小のよさとして「みんな仲がいい」「みんな優しい」「譲り合いがある」「みんなが協力する」ことを挙げている。<br>◇ 教育相談で先生方が交代で話を聞いて下さり、それを職員間で共有していることに安心感がある。     | 3.3      | 3.4      | ○ 様々な行事やイベントがあり、子どもたちは「学校が楽しい」と感じていると思う。<br>○ 時々用事があって学校を訪ねたときなどに、子どもたちが進んで挨拶をしてくれるので気持ちがよい。<br>○ 市街地から学校までの県道にゴミが落ちていることがある。自家用車で通学してくる子が多いと思うが、そのような地域の様子を見て、環境整備への意識を高められるような子どもたちになってほしい。 |
|   | 児童の自己肯定感を高める活動や環境を整備する。         | ○ 全校帰りの会で、お互いのよいところを伝え合う場を設定している。教師も日常により行動を認める声かけを行っている。<br>◇ A・B評価の割合は、児童が88%、保護者が87%である。<br>◇ 児童が夏尾小のよさとして「どの友達も優しくみんなでほめ合える学校」を挙げている。   |          |          |   |
|   | 集会や日頃の指導で、挨拶や返事について児童への意識付けを行う。 | ○ 登校後の校長室や職員室での挨拶や、定期的な正門横での挨拶運動等の取組を行っている。学年・学級を越えて、児童同士が自然に挨拶を交わす雰囲気ができている。<br>● いつでもどこでも気持ちのよい挨拶や返事ができる児童には個人差がある。<br>◇ A・B評価の割合は、児童が88%、保護者が80%である。<br>◆ 以前に比べて挨拶されることが少なくなったと思う。コロナ禍で地域の人や他校との交流、保護者との交流が極端に減ったのも一因だと思われる。保護者も積極的に子どもたちに挨拶やコミュニケーションを取ってお手本になれるよう心がけていきたい。 |          |          |   |
|   | 身近な環境整備など、自らできることを実践するよう働きかける。  | ○ 登校後、草取りや落ち葉掃き等朝のボランティア活動を行っている。<br>● 個人差があり、一生懸命取り組んでいる児童もいるが、そうでない児童もいる。<br>◆ A・B評価の割合は、児童が63%、保護者が87%である。   |          |          |   |

《課題と改善点》

\* 挨拶や返事、ボランティア活動への取組について、よりよい姿を子どもたちに教えたり、職員や保護者等身近な大人が手本を示したり、子どもたちの望ましい行いを称賛したりすることで改善を図っていく。

令和4年度 都城市立夏尾小学校 学校評価報告書③

【4段階評価 A(4) = 思う B(3) = だいたい思う C(2) = あまりそう思わない D(1) = そう思わない】

**○ 健康・安全**

| 重点目標  | 目標達成のための<br>努力実践事項  | 学校の自己評価コメント<br>(○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから)  | 自己<br>評定 | 関<br>係<br>評定 | 学校関係者コメント                          |
|---|---|---|----------|--------------|------------------------------------|
| ◎ 児童一人ひとりの体力向上に努め、学校平均を県平均に近づける。<br>◎ 健康・安全意識の向上と食育の推進を図る。<br>◎ 児童の事故を未然に防ぎ、命を守る。 | 体力向上プランに基づき、体育の時間の運動量の確保と体力向上のための指導を継続して行う。<br><br>毎日の健康チェックと早寝・早起き・朝ごはん、健康・安全・食育について家庭との連携を図る。<br><br>避難訓練を充実させ、定期的な安全点検や児童への安全指導を確実に行う。 | ○ 小規模校ということで、体育学習では運動量の確保ができています。子どもたちは、体力を伸ばすことよりも、体を動かすことが好き、運動が好きという感じである<br>○ 体力テストの結果5名がA判定であった。<br>◆ A・B評価の割合は、児童が74%、保護者が80%である。<br><br>○ 毎日の健康チェックや定期的な保健だよりや食育だより、お弁当の日の取組等を通じて家庭との連携を図っている。<br>◆ A・B評価の割合は、児童が79%、保護者が87%である。<br><br>○ 噴火・地震・不審者・火災に対応する避難訓練を行い、非常時の対応の在り方を確認している。噴火対応の訓練では、御池青少年自然の家の方の説明や、保護者への引き渡し訓練も取り入れた。<br>○ 台風災害の直後に全校集会を開き、危険個所の確認や命の大切さについて考える場を設定した。<br>◇ A・B評価の割合は、児童が83%、保護者が87%である。 | 3.3      | 3.7          | ○ グラウンドで運動をしたり、元気よく遊んだりする姿が見られてよい。 |

**《課題と改善点》**

\* 体力や健康に対する児童や保護者の意識を高めるために、これまでの取組を継続・充実させていくとともに、機会を見て現状のフィードバックを行うことで、自らや我が子の体力や健康について見つめ直したり、その向上を実感したりできるようにしていく。

令和4年度 都城市立夏尾小学校 学校評価報告書④

【4段階評価 A(4) = 思う B(3) = だいたい思う C(2) = あまりそう思わない D(1) = そう思わない】

〇 ふるさと教育

| 重点目標   | 目標達成のための<br>努力実践事項  | 学校の自己評価コメント<br>(○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから)   | 自己<br>評価 | 関係<br>評価 | 学校関係者コメント   |
|--|---|--|----------|----------|---|
| <p>◎ 夏尾らしさを生かして、魅力ある学校づくりをめざす。</p> <p>◎ 伝統芸能『奴踊り』を継承する。</p> <p>◎ コミュニティ・スクールとして、より良い学校づくりをめざす。</p> | <p>地域の素材や人材を使った体験学習を工夫し、地域の方とふれあえる場を位置づける。</p> <p>発表の場で、児童が自信をもって踊れるように練習指導を行う。</p> <p>学校からの情報発信に努めるとともに、学校運営協議会をはじめ、地域の方や保護者の意見を聞く場を大切にする。</p> | <p>○ コロナ禍で十分な活動ができないこともあるが、梅しそ漬けやオープンスクールなど、できる範囲で地域の方とふれあう機会を設けた。</p> <p>◇ A・B評価の割合は、児童が96%、保護者が93%である。</p> <p>◇ 児童が夏尾小のよさとして「自然が豊かである」「楽しい行事がいっぱいある」ことを挙げている。</p> <p>◇ 特認校として地域の方々に感謝し、ふれあう事を通して地域を活気有るものにしていくと感じている。</p> <p>○ 運動会では熱心な指導のもと、自信をもってしっかりと披露してくれた。発表する場は少なかったが、転入してきた児童もふくめて踊りが上達している。</p> <p>◇ A・B評価の割合は、児童が92%、保護者が100%である。</p> <p>◇ 夏尾の奴踊りの由来を調べたが地域によって色々あるようで、詳細は分からなかった。保護者にも機会があれば教えてほしい。夏尾の奴踊りを動画で見られると一緒に覚えるいい機会になると思う。</p> <p>○ 学校だよりや学級通信、学校のホームページを通じて、学校の取組や子どもたちの様子を可能な限り発信した。</p> <p>○ 保護者、地域、学校が一体となった学校運営がなされていると思う。コロナ禍で最大限の活動がなされている。</p> <p>◇ A・B評価の割合は、保護者が87%である</p> | 3.5      | 3.6      | <p>○ 現在はコロナ禍で、地域住民みんなに声かけとはいかない状況にあるが、学校だよりを通して、学習や行事の様子など学校で何が行われているかは把握されていると思う。地域の学校でありたいという思いが伝わってくる。</p> |

《課題と改善点》

\* コロナの状況に合わせてながら、引き続いて地域の豊かな環境や人材、歴史や文化等を活かした教育活動を行うとともに、その取組を積極的に発信していく。

